藤永田の労働爭議惡化

西長堀で警官隊と大衝突を演じ双方共各二三十名の負傷を出す

一隊は課長邸宅に殺到し亂暴を働く

藤永田造船所の職工五百名は昨日の休業引續き爲めやけ氣味となり大に酒を呷つた擧句

其勢を

藉りて十八日午後五時頃東成郡玉出町の藤永田造船所造船課長鈴木氏の邸宅に押寄せ示威運動を試みんとしたが

不穩の

形勢を示したが此事實は大阪を押立て寄せ來た三隊の警官に檢擧され電車線路に沿ふて進行し四區西長堀北通二丁目藤永田造船所顧問前野芳造氏邸宅に押寄せんとした。是より先

急報に

依りて新町署より八十餘名の警官を派し嚴重警戒し寄せ付けざらん爲め職工團は一度却退して四ツ橋に至りしが八時頃再び引返し來り前野邸に殺到せし時しも警察部の自動車二臺疾驅し來りしを斯くて見るや

職工中

の或る者之を止めんとしたが動機に双方の衝突を

警官側

はサーベルの鞘

警官側

はサーベルの鞘

起し職工側四五百名と八十餘の警官隊と入亂れ混戰一大爭鬪を演出し其處向ふたもので最初は石を投ぐるは勿論に格鬪組み合の合を演じ職工團に止まりしも遂に警察部の自動車の囘轉を以て停車を見るに至りしものにて檢束されて大阪道組合幹事で藤永田の職工團中には長堀河に飛び込み避難するものあり混亂名狀す可らざる有樣で遂に警官側に二十餘名

職工側

は三十餘名の負傷者を出したるが應援の警官二百餘名馳付けたる爲め漸く集團を追散し其內三十餘名を新町署に引致し負傷者には手當中である（大阪）

爭鬪原因

檢束者三十名

最初は投石位る

爭鬪の原因は此日船津橋附近に於て罷業職工に對し營附來を分配するよりなりし爲め各職工之が分配を受くべく途中他の勞働團之に合し二千數百名となり氣勢凄るに隨ひ目拔の町々を示威運動に練廻り所內の一千五百名が玉出の造船課長邸に向ひ他の二千餘名は松島方面

爭議解決一頓挫

警官隊との大衝突で

協調會側の奔走水泡か

藤永田の爭議は協調會側の奔走に依つて解決に歸着つゝありし際なりしが十八日の如きも愈々圓滿に解決すべきものと思はれて居たが圖らずも西長堀で警官隊と大衝突を演じ流血の慘事を惹起したので藤沼警察部長は同夜深更警察部長室に詰切の儘の夜を引くが如く到着する報告を前に幹部を集めて、締力對策に犯人の檢擧につき密議を凝らす處があつたが同夜十時半頃に至り協調會理事添田敬一郎氏は武藤間衛視課長と共に來訪し解決に關し十二時過ぎ迄熱心に密議を續けたが今回の騷動によつて事件の解決は再び一頓挫を見るだらうと觀測されてゐる（大阪）

無自覺操縱

藤沼部長が曰いて曰く

自分は着任早々この藤永田造船所の爭議に逢ひ從つて第一に勤めるべき方法として過日友愛會並に職工代表者を招致し爭議取締に關する所信を語つた、而して非常職工の示威運動並に演說會に對しては能ふ限りの自由を認むる反面に於ては爭ひ自分の信賴を裏切る行動に出でた場合には徹底的に檢擧の方針を執る旨を通達して且つこの意を敷衍せしむる爲めに十七日改めて各團體警察署長よりこれを傳へしめ飽く

妥協點を

發見すべく

（前野日野兩氏會見）

藤永田の爭議

大阪藤永田造船所の勞働爭議の調停役に起つた辯護士日野國明氏は二十一日午前九時二十分同造船所顧問前野芳造氏の訪問を受け北區伊勢町の自宅で正午まで資本家側と勞働者側との妥協點について丘に意見を開陳したが各自竝獨では取極め兼ねる事項があるので午後前野氏は藤永田造船所へ日野氏は西區新町の共益社へそれ〳〵車を飛ばし會社側及び職工側と右難點の協調につき相談した、其の內容は祕密にせられて居るが前日來の形勢から推すと罷業職工中の一部解雇及び團體交涉權の認容問題らしく午後四時二氏は再び會見する筈である